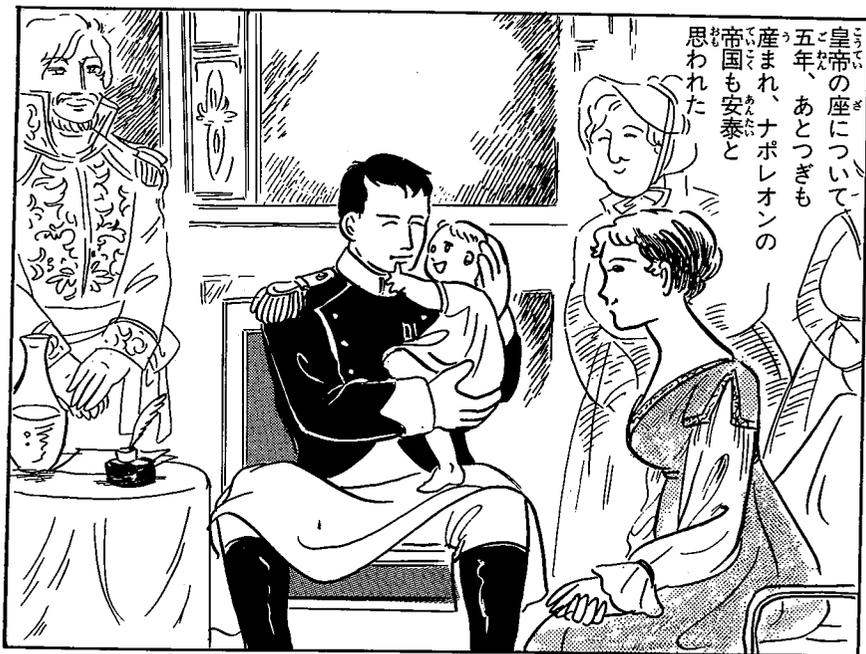


ケロとコロの 仏教入門

⑪ ナポレオンの生涯 (その3)



伊藤 礼子



皇帝の座について
五年、あともつきも
産まれ、ナポレオンの
帝国も安泰と
思われた

ついに一八二二年五月九日
ナポレオンはロシアとの
戦いを決意し
サン・クルー宮殿を
あとにした

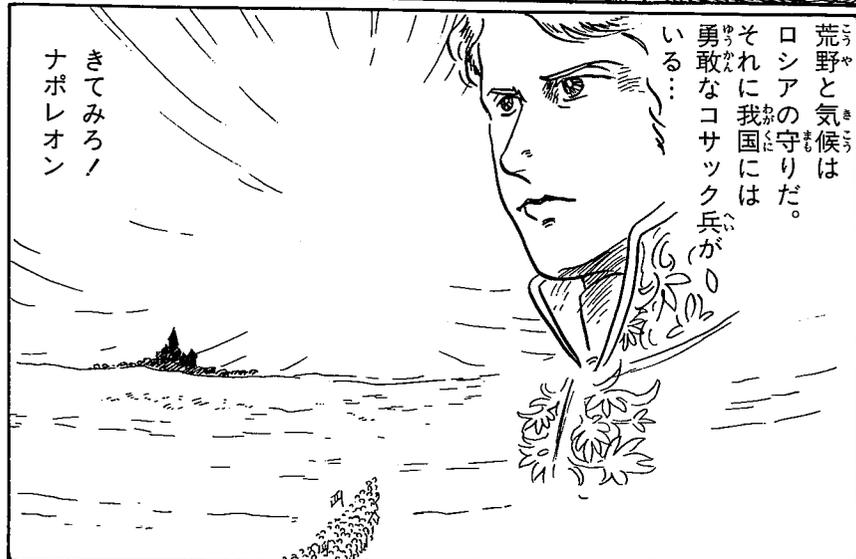
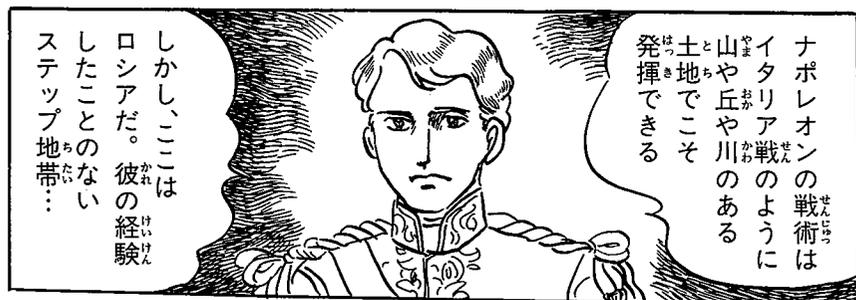
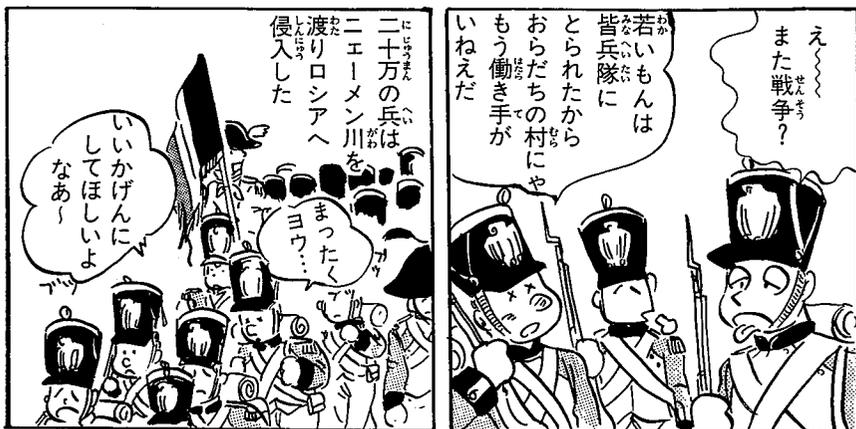


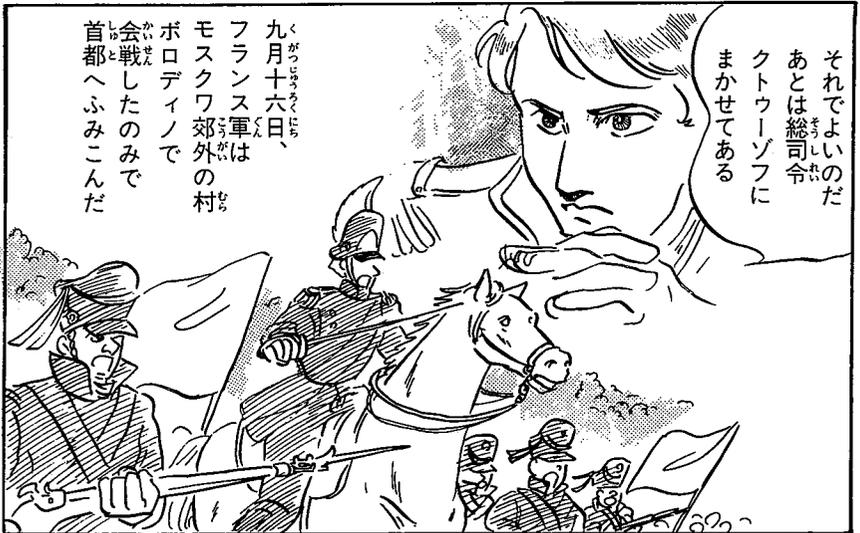
出発!

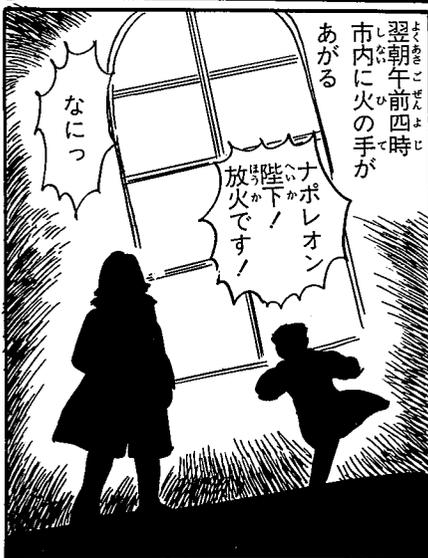
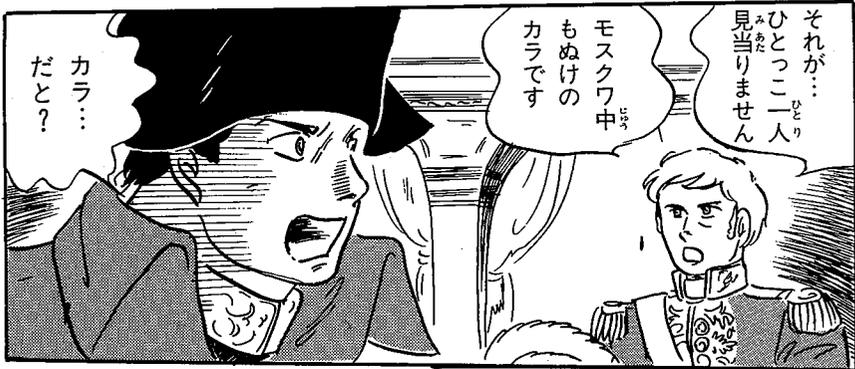


だが大国ロシアとの
対立は深まり...

ロシア皇帝
アレクサンドル一世



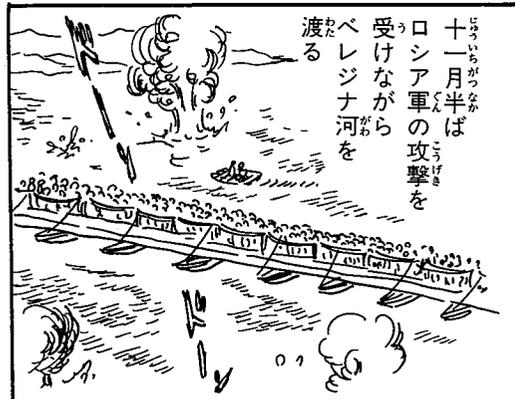
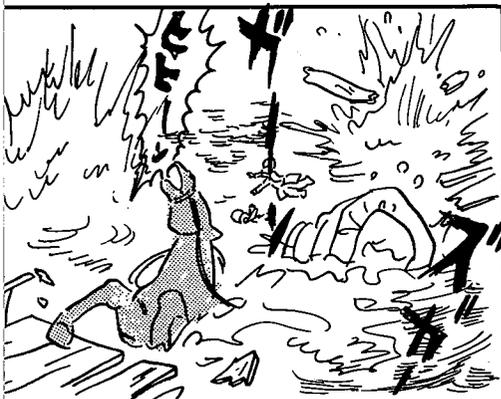






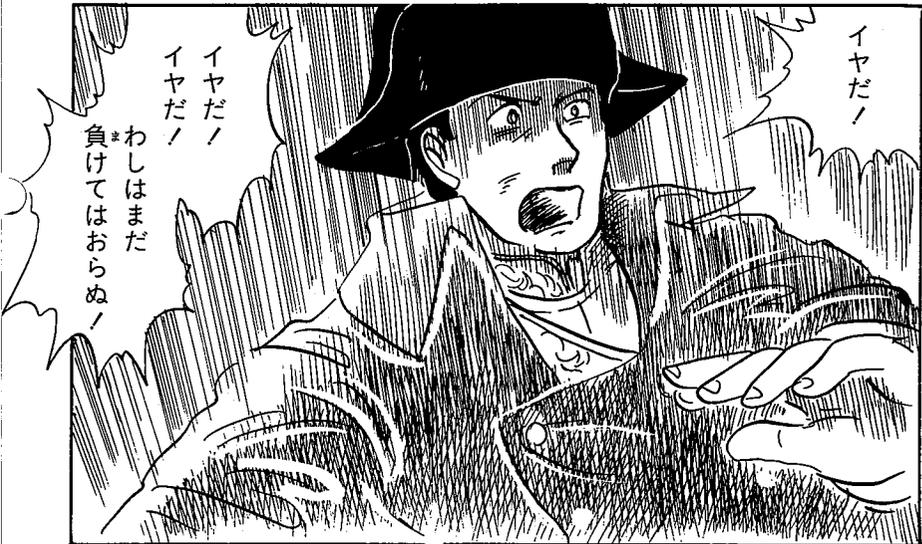
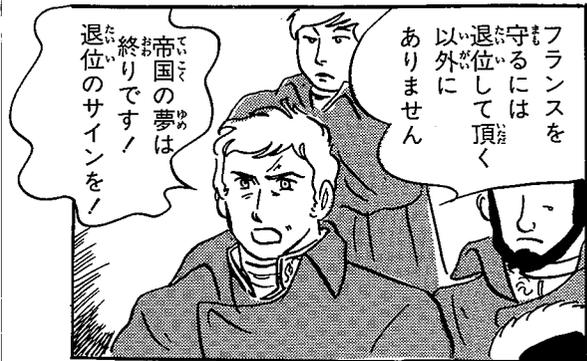


ロシア軍の追撃だけでなく、多くのフランス兵は飢えと寒さで次々とたおれていった



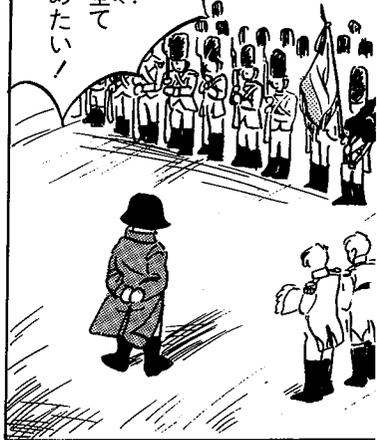
十一月半ばにロシア軍の攻撃を受けながら、レジンナ河を渡る





一八一四年
ナポレオンは
退位した

兵士諸君！
私は君達全て
を抱きしめたい！



だがそれも
できぬ…
せめて諸君の
軍旗を抱かせ
てくれ！



さらばだ！

ナポレオンは
流刑地
エルバ島に渡る
ためフレジユス港へと
向かう…



暴君を
たおせ！



フランスの民衆は
憎悪を
むき出しにして

ルイ十八世
パンザイ！

ナポレオンの
肖像画も
焼き捨てた



ヨーロッパ連合に
よって王政復古が
なされた

ルイ十八世

オイッこれじゃ
革命前に
逆もどりだ

また貴族が
いばり始めた
わよッ

わしゃー
やっぱナポレオン
のほうが
ええのう

革命で処刑された
ルイ十六世の弟を亡命先から
ルイ十八世として迎えたが…
国民は貴族中心の政治に
不満を示した



エルバ島の港



ナポレオンは、エルバ島でヨーロッパ、フランスの情報を密かに入手していた



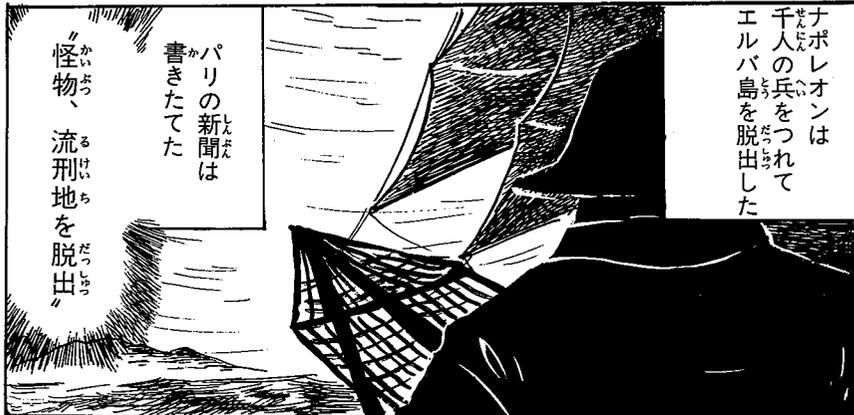
これこそチャンスだ！

今なら国民も歓迎してわしを迎えるだろう！



フランス国民は王政に不満らしいな

戦争処理のウィーン会議ももめてるじゃないか



ナポレオンは千人の兵をつれてエルバ島を脱出した

パリの新聞は書きたてた

怪物、流刑地を脱出

そ、それが
皆よろこんで
ナポレオンに、
ねがえて
兵士の数も
ふえる一方……



国王陛下ノ大變です
ナポレオンが……
にやにい
フランス
上陸?
ほっておけ
たかが千人の兵で
何ができる



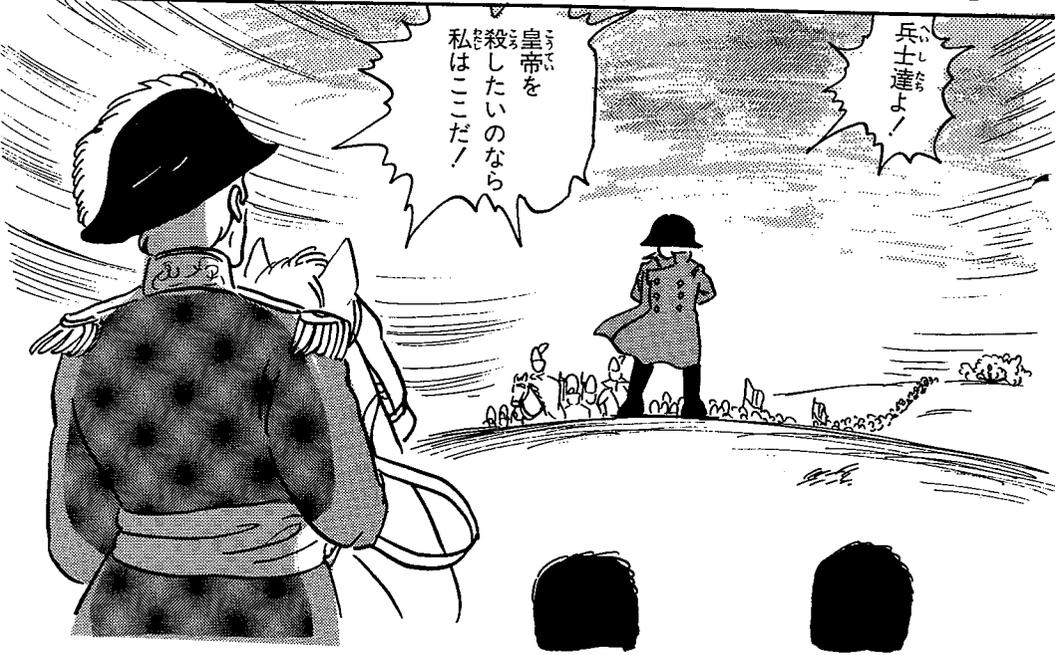
今は国王陛下に
忠誠を誓う
ものであります

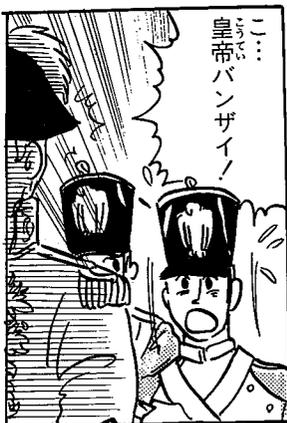
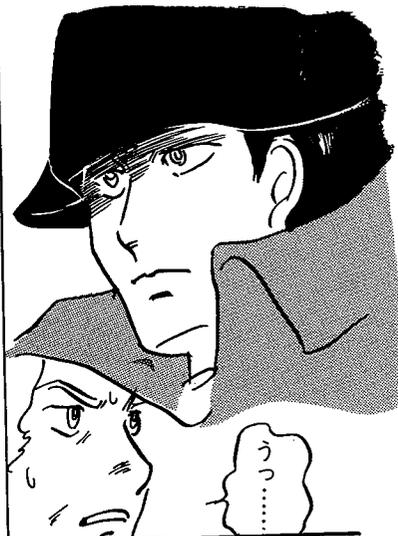


ネイ元帥
ナポレオンを
うてるか?
君は長年
ナポレオンの
部下だったか?
ハッ



兵士達よ!
皇帝を
殺したいのなら
私はここに!





ナポレオン
上陸から二十日
その間一発の
銃声も無し

ナポレオンを
暴君と呼び
追放した国民が
彼をどう迎えたか
新聞の見出しを
追ってみよう

「ゴルシカのオオカミ
カンヌに上陸—」

「専制皇帝
リヨンへ
入る」





イギリス軍のかたい守りに
ジェローム、ネイ将軍も
苦戦し…



ハ…ハイ!
アツむこうから
大軍が

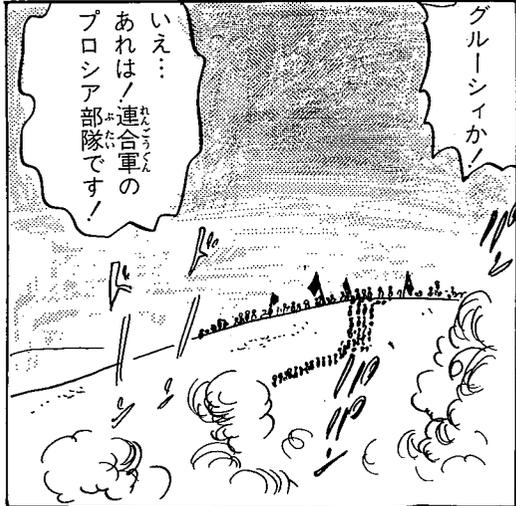
グルーシー将軍の
援軍はまだか!



その上
ぬかるみが
砲車の足を
とる



なに?!



いえ…
あれは、連合軍の
プロシア部隊です!

グルーシイか!



プロシア軍
だーっ逃げる！

ひとり人も生かして
帰すな！
行けーっ

プロシア軍 ブリュッハ將軍



私がわかるか！
フランス陸軍の
ネイ元帥だ！

まてっ
ふみ止まれ！



フランス軍はパニックに
おちいり戦線は崩れ出した。
兵士達はわれ先にと
戦場を離脱しはじめた

「お
終りだ！

「われは破れ
わが帝国は
ガラスのごとく
砕けた！」

「たおれたる
つわものたちよ」

ナポレオンは
敗北を認めた

ついに驚は
墜ちたのである

従者に回想録を
口述筆記させたり
して過すが

その後は絶海の孤島
セント・ヘレナに
流刑となった

次第に体調が
悪くなっていった

